

# 令和2年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者の皆さんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。  
この貴重な結果を大事にして、令和3年度に臨みたいと思います。

令和3年3月 ひしのみこども園 園長 千住由一郎

## 1. 園の保育と教育の目標

「子ども一人ひとりの主体的、創造的活動を促すとともに集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につけさせ、生きる力の基礎を培う」

## 2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	遅しく
<ul style="list-style-type: none"> <li>感性豊かな子</li> <li>協同して遊び互いに尊重する子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造性豊かな子</li> <li>知的好奇心に満ちた子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで運動する子</li> <li>食事を楽しむことができる子</li> </ul>

## 3. 保育と教育の方針

- 子どもが進んで身体を動かして遊びを楽しむような環境づくりをする。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量に対する関心などの、知的発達を促す場づくりをする。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的生活習慣が身につくように努める。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また自然の恵みに感謝する気持ちをもたせる。
- 意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身に付けさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。

## 4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準			
A 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が90以上		A 園の自己評価を納得できる			
B 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上		B 園の自己評価を大体納得できる			
C 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満		C 園の自己評価をあまり納得できない			
		D 園の自己評価を納得できない			
領域	評価の観点	自己評価		関係者評価	
運営の体制	1. 教育・保育への意欲	A	行事や遊びを通して、子ども一人一人の成長を感じることができた。コロナ禍の中、職員は、指導の工夫に努めた。	A	園の評価に納得できます。
	2. 施設・設備の有効活用	A	コロナ感染予防をしながら、雨天時でもホールで元気いっぱい遊ぶなど、施設・設備の有効利用はできた。	A	園の評価に納得できます。
	3. 危機管理と安全管理	A	毎月の避難訓練・安全点検及び毎日の連絡会の申し送りによって、目標は達成している。	A	緊急時の対応について、保護者にも伝えてください。

	4. 職員への信頼性	A	コロナ禍のため、気軽に相談できるような状況やお子さんの様子を十分お伝えすることができなかった。	A	コロナ禍で大変ですが、園児の様子が保護者に伝わるように努めてください。
日 々 の 保 育	1. 道徳性の涵養	B	機会をとらえて、絵本や紙芝居等を利用しながら、場面に応じた指導をしてきたが、保護者との情報交換が不足していた。	B	保護者の期待も高いので、更に家庭との連携に努めてください。
	2. 生活習慣	A	大切な保護者との情報交換を密に行うことができなかった。連絡帳等で園での様子を伝えていきたい。	A	更に家庭との連携に努めてください。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や感染症の情報提供、発育測定、健診の結果報告により、保護者との情報共有に努めている。	A	園の評価に納得できます。
	4. 遊びを通して	A	一人一人の発達に応じたかかわりを通して、興味関心、意欲を引き出し幼児期に必要な体験ができるよう努めている。	A	工夫した活動をして頂けると感じます。
	5. 幼小の接続期指導	A	就学へ向けて、中央校と幼保小連携会議、1年生との交流会、担任との情報交換会を行っている。	A	園の評価に納得できます。
地 域 と の 連 携	1. 身近な人々とのかかわり		コロナ禍のため、身近な人との交流ができなかった。		
	2. 食育の推進	A	偏食や食事のマナーについては、来年度は、家庭と密に情報交換をしながら取り組んでいきたい。	A	給食の様子も情報発信してください。
	3. 生命に気付く環境	A	昆虫や小動物の飼育、野菜や草花の栽培などの体験を通して、自然とのかかわりを大切にしてきた。	A	園の評価に納得できます。
	4. 絵本との出会いと読書活動の啓発	A	毎日の読み聞かせで、絵本のおもしろさを引き出し、子どもが自分の世界を膨らませ、文字への興味にもつながっている。	A	更に活動の推進をしてください。
	5. 開かれたこども園	B	今年度は保育参観や懇談会を中止したため、園の様子がわかりにくかったとご意見があった。今後、様々な情報発信も含め理解を深めていきたい。	B	情報発信の方法も改善し、発信量も増やしてください。

#### 5. 関係者委員会のコメント

コロナ禍の中、最大限のパフォーマンスを図られ、子どもたちの活動をなんとか確保しようとされていると感じました。

園の指導方針(指標)にそって、全職員が十分な気遣い、心配りの下に保育指導されており、保護者の安心感、感謝の気持ちが見て取れます。

避難訓練で保護者と共に行う事も良いと思います。また、園児の引き渡しのやり方を保護者へ周知することも必要です。

保護者との情報交換が十分でなかった場面もあったようですので、コミュニケーションの機会を少しでも多くもつよう努めてください。

日々の受け渡しの時の言葉かけや連絡帳の活用を大切にして、保護者と園(担任)が情報共有していくことが重要です。

道徳性の涵養については、保護者と共に考え、思う場を設けることも大切と考えます。

園の様子を多様な方法で情報発信を図り、保護者との十分な情報交換を行うと、保護者の安心感等が向上すると思います。

## 6. 総合評価と次年度への課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、園行事や教育・保育活動に大きな影響が出ました。そして、感染者への誹謗や中傷から、園児や職員並びにその家族を守るため、園から感染者を出さないと決意し取り組んで参りました。コロナ禍の影響で、PTA総会、懇談会、保育参観を中止にしました。一方、保護者が参加する夏祭り、運動会、わくわくの会、ミニ音楽会は、2部構成にするなど感染防止に努め開催しました。特に、日々の教育・保育活動にも様々な制限がある中、自発的な遊びを通した様々な体験を行う「子ども中心の教育・保育」を行い、子ども一人一人の成長や発達を促すことに努めて参りました。その一方、感染症対策のため、保護者との十分な情報交換ができず、園の様子が分かりづらい面がありました。

自己評価アンケート結果より、14項目中11項目がA評価、「道徳性の涵養」と「開かれたこども園」がBと自己評価し、「身近な人々とのかわり」は、コロナ禍により身近な人との交流ができませんでしたので評価しておりません。外部の関係者評価委員の方からは、コロナ禍の中で、園の教育・保育活動に対してほぼ信頼されているとらえますが、情報の発信、情報の共有について工夫を行って欲しいと言われました。

園内研修では、「言葉」領域を視点に全員研究保育及び研究協議を行い、幼児教育の向上に努めました。また、令和3年1月26日に、佐賀県メディア教育研究大会が開催され、年長組で公開保育を行いました。公開保育では、参観者より、どの園児も見通しを持って、粘り強く活動していたと賞賛されました。

次年度においては、令和3年11月12日に「第70回九州地方放送教育研究大会・佐賀大会」幼稚園・保育部会の公開保育をします。放送教育を利用した教育・保育の研究も行います。また、園内研修では「言葉」領域の研究が4年目となり、更なる研究の深化・拡充をすすめて参ります。そして、「やさしく、かしこく、たくましい」ひのみの子どもの成長を願って、「情報発信」「コミュニケーション」「情報共有」をキーワードに様々な工夫を行い、課題解決を図っていきたいと考えています。